

2019年11月12日 Cグループ

服部茂幸『偽りの経済政策 格差と停滞のアベノミクス』岩波書店 2017年
各グループの疑問点

Aグループから

デフレ脱却が出来なかった外的要因として、どれも正しい経済分析ではないと述べている
(18頁、22頁)が、その理由は何か。

<回答>

様々な要因が存在するが、主なものとしては物価が上昇したにも関わらず賃金が上昇しな
かったことや、マイナス金利政策が貨幣流通の増加にうまく寄与しなかったことなどが挙
げられる

Bグループから

マイナス金利政策(120頁)はやらない方がよかったのか。また、成功する見込みはあった
のか。

<回答>

もともと黒田総裁はマイナス金利政策の導入を否定していた(118頁)ので、その導入後、
日銀以外の銀行との連携がうまくいかなかったのが大きな原因である。政策を始める以前
の黒田総裁の意見が違っていたら結果は変わっていた可能性もあったと考える。

Dグループから

筆者は終始アベノミクスを批判しているが、評価している点はないのか。

<回答>

筆者は、“経済政策の評価は何を持って成功とするかという価値観に依存する”という考え
であり、この本の中で全ての政策や考え方に対して批判や反対をしているわけではなく、
世界的な原油価格の急落が消費者物価上昇率を引き下げたことには賛同している(204-205
頁)。